

【書評】

専修大学今村法律研究室編『大逆事件と今村力三郎』

北 村 巖

(北海学園大学講師)

専修大学出版局からは大逆事件に関する多くの書籍が刊行されている。具体的には『今村力三郎訴訟記録』（第30巻、第31巻、第32巻）や『今村力三郎「法廷五十年」』などである。しかし、それらは現在ほとんど入手が難しい状況にあり、そうしたなかでこれらの書籍のなかから幾つかを抄録としてまとめられたのが本書である。本書は家永登氏（専修大学今村法律研究室前室長）の「序」にはじまり、日高義博氏（専修大学前学長）による「大逆事件の裁判の経緯と争点」（再録）と矢澤昇治氏（専修大学法科大学院教授）の書き下ろした「大逆事件と今村力三郎」が収められている。矢澤論文には、今村の生き方やその業績とともに、大逆事件などの冤罪がどのようにして捏造されていったのかなどが論稿されている。さらに本書には、今村の残した「今村力三郎公判ノート」や同事件についての所感をまとめた「芻言」「芻言後記」「冤罪考」（いずれも再録）も所収されている。また、大逆事件の判決書の全文を訴訟記録からの再録として収められている。

大逆事件が国家権力によって仕組まれた冤罪であったことについては、既に神崎清氏や絲屋壽雄氏など多くの研究者の努力によって明らかとなっている。ここではそのことについては繰り返さないが、筆者は本書に収められている判決書のなかから、この裁判がいかに杜撰であったかについて一点だけ触れておく。

大逆事件は幾つかの事案によって構成されている。その1つが明治42年、和歌山県新宮で大石誠之助が行った会合がある。大石は前年11月に東京にて幸徳秋水を訪ね歓談する。帰省後、そのお土産話もあり酒を交えての新年会を新宮の大石宅で開く。判決ではこの会合で「大逆の謀議」をしたとされたのである。参加したのは成石平四郎、高木顕明、峰尾節堂、崎久保誓一と大石を含む5名なのだが、判決書では「決死ノ士ヲ募リ」「皇居ニ侵入シテ大逆ヲ敢行」の謀議をしたとなっている。こうして5名全員に死刑判決が下る（判決の翌日、顕明・節堂・誓一の3名は無期懲役に減刑となる）。

さて、その謀議をしたとされる大石宅の「裏座敷ノ二階」について、判決書では

どのようなになっているかを精査すると以下の通りである。

まず、大石の供述には判決書にて「明治四十二年一月下旬成石平四郎高木顕明峯尾節堂崎久保誓一ヲ被告（大石誠之助―筆者記入）宅ニ招致」（本書208頁8行目）となっている。次に成石では「明治四十一年十二月カ翌四十二年一月頃……高木顕明峯尾節堂崎久保誓一ト共ニ大石ノ招致ヲ受ケタルコトニアリ其際大石ハ裏座敷ノ二階」（本書210頁15・16・17行目）とある。顕明では「明治四十二年一二月ノ頃大石ノ招致ニ応シ峯尾節堂崎久保誓一成石平四郎ト共ニ大石方裏座敷ノ二階」（本書212頁4・5行目）とある。節堂では「明治四十二年一月頃大石ノ招致ニヨリ同人方ニ行キタルニ成石平四郎高木顕明崎久保誓一モ来集セリ大石ハ裏座敷」（本書213頁5・6行目）とある。誓一では「明治四十二年二月頃大石方ニ招カレ行キタルニ成石平四郎高木顕明峯尾節堂モ召集サレ居タリ大石ハ裏座敷ノ二階」（本書214頁2・3行目）とある。

以上のように、5名に共通していることは次の2点である。まず、場所がともに大石宅の「裏座敷ノ二階」（大石の場合は「宅」と表記）であること。次にいずれも参加者は大石も含め5名であること。だが、肝心要の会合したという月日（及び時間）が5名とも具体的に記述されていないのである。曖昧に記述された期日もまた、まちまちなのである。たとえば、大石の場合は「明治四十二年一月下旬」であり、成石の場合は「明治四十一年十二月カ翌四十二年一月頃」、顕明では「明治四十二年一二月ノ頃」、節堂では「明治四十二年一月頃」、誓一では「明治四十二年二月頃」となっている。かくのごとく共同謀議がなされたという月日がバラバラという奇妙な判決書なのである。およそ、事件の成立において最低必要不可欠なものは月日及び時間の明記であろう。この新宮での新年会は少なくとも参加者は「五名」、場所は「裏座敷ノ二階」と特定されていることからしても、その最低不可欠な要件である月日の不一致は致命的なこととさえ思う。共同謀議をしたという期日が、このように不一致ではそもそも〈共同謀議〉は成立しないのである。こんな杜撰な判決によって幸徳秋水や大石誠之助たちが処刑されていったのである。

本書に収められた判決書からは、矢澤論文でも指摘されているように、国家権力の捏造であることが読み取れる。大逆事件から百年を経た今日まで、処刑された幸徳をはじめとした人々に、国家はいまだ冤罪とも認めていないし、謝罪もしていないのである。そして、何よりもこの事件を画策し捏造に関与した者も、また具体的に裁判にて手を汚したのも、誰一人その責任を取っていないのである。

（専修大学出版局（2012年3月）337頁 2800円＋税）